

つぶれ、とさかよりちたり、おぬけなどして、見わたるほどになりてかへりたり、おほかた思ふばかりなし、今はゆ、しき鳥ありとも、なに、かはせん、たまはりの鳥なれば、きくもいみじからむとこそ思ひしになどかへすく、こ、ろうくて、辨内侍。

われぞまづねにたつばかりおぼえけるゆふつけ鳥のなれるすがたに、三月[○]三御鳥合なり、御所[○]後[○]藤三條中納言、公親、頭中將、公保、伊與中將、公忠、すけやすの中將、藏人はのこりなし、はつゆきなる

あかこくろなどいふ鳥ども、かねてよりふせごにつきて、をのく、あづかりて、丁子玄やかうすりつけ、たきものなどして、いづれかにほひうつくしきとぞあらそひし、みすのうちより出されしかば、萬里小路の大納言たまはりてあはせられし、ゆ、しかりし君なり、ひよくより御所に御手ならさせおはしまして、かひたてられしいみじさばかりにてこそ侍れ、御とりがらはあやしげなれば、かたせんとて、それよりをとりたる鳥どもに合せられしもおかし、公忠公保がとりあはせしおり、伊與中將がとり、そらおどりすると人々わらひしに、冷泉大納言、ひさかたのそらおどりこそおかしけれとのたまへば、公忠さこそといひたりし、おかしくて、辨内侍。

雲ゐとはなれさへしるや久かたのそらおどりする鳥にも有哉

〔看聞日記〕應永廿三年三月三日、桃花宴如例、但鶏闘之儀被略、當所鶏不養、仍無之、廿五年三月三日、早旦、鶏闘三番合之、當所鳥難得之間、纔五羽尋出了、

〔管見記〕永享五年三月三日、相當上巳、一段之佳節也、慶壽院殿依三回之中、鶏闘略之、五月一日、召集家僕等、打下殘、以鵝眼令闘、雌雄尤乘興、

〔建内記〕嘉吉三年二月十三日、己亥、藏人中務丞源定仲一鵝也、送御教書於右兵衛佐成房、來月三日、闘鶏三羽可召進之由也、可出領狀、請文由仰合候、